

## メディアがのぞむ企業のリスク

毎日新聞の小島正美  
2015年8月30日  
SFSS(東大中島記念ホール)

[＜ホームページ公開用 抜粋版＞](#)

## きょうの話

- ①トランス脂肪酸記事に見る記者、メディアの相違。情報の信頼度をどう考えるか
- ②農業とミツバチ
- ③阪急阪神ホテル問題
- ④異物混入
- ⑤GM作物のリスクの伝え方
- ⑥市民社会での科学とは何か

## トランス脂肪酸とリスク

トランス脂肪酸は怖い物質か？  
報道に見る各種情報をどう見るか

## NHK(7月24日)



- ◎「私は避けている」との米国人2人を登場させ、学者が「禁止は医療費の削減になる」
- ◎マーガリンやショートニングでなく、バターで菓子を作った事業者「売上1.5倍」
- ◎「表示なしで消費者に不安ですね」(NHK司会)

## 私の記事は文春、日経と異なる



◎全面禁止でない。禁止は水素添加油(硬化油)。GRASの対象でなくなる。つまり、2018年から食品添加物扱いへ。

◎日本人の摂取は0.3%。規制の必要性低い

◎各種文献をメタ解析した食品安全委員会の見解を重視。

## 他の媒体は

◎朝日新聞＝日本人は0.3%の摂取。心配なし。食品添加物とGRASの関係の説明なし。

◎ライブドア・ニュース(ネット)＝「米国でトランス脂肪酸が禁止」報道は誤り。規制されたのは硬化油。食品安全委員会のHPを紹介

◎Jcastニュース(ネット)＝「安全と認められない」米国は18年に全廃、日本はどうする？

◎フーコムの瀬古博子さん「脂肪の取りすぎが良くないという基本的なことが報道にない」

## トランスをどう見るか

- ①新聞、テレビ、週刊誌、どれを信じるか
  - ②新聞、テレビ、週刊誌の、どの媒体の記者を信じるか(問い=新聞はなぜ、冷静だったか)
  - ③新聞、テレビ、週刊誌の、どの専門家を信じるか
- 判定方法=ニュースの構図(記者の狙い。登場する学者は少数派か。あおって売上を伸ばそうとしているか。正確性を重視しているか。

## なぜ、新聞は冷静だったか

- ◎食安委は日経の記事の翌日。登録記者に「これは間違い」と一斉メール。「全面禁止ではない。GRASからははずすと公表しただけ」。すぐに「カウンター情報」を伝えることが重要。おそくても2日以内がよい。
- ◎週刊誌は「個別の記事に対応しない」。反論を受け付けられない媒体は信用できるか。それでも意見だけでも出せば、一定の抑止力あり。
- ◎食安委のような「メディアのメディア」に期待。

## 学者の見解の見極め方

- 【どんな学者か、よりも、どのような思考方法、分析手法で結論に至ったかが重要】
- ①一人の意見、ひとつの論文よりも、メタ分析(質の高い複数の論文の総合的な分析)の結果を重視したか。
  - ②過去の業績。専門性の裏付けあるか。
  - ③その人の属する学会の合意は？
  - ④自分の価値観とメタ分析を切り離す

## 両論併記の罠

- 【専門家間で意見が分かれている？】
- ◎専門家の比率は、99%×1%か  
50%×50%か
  - ◎メディアはどの場合でも「意見が分かれている」と表現。
  - 根源的な課題=少数派の意見を取り上げるのがメディアの役割という社会科学の見方もある。1%の専門家も取り上げるべきか？

## ニュースは一部専門家、一部市民団体の見解で十分に成り立つ

- ◎ニュースはすべて記者の主観的な作品。見出しも、中身も主観的

## メディアのまとめ

- ◎主要新聞は心配なし。規制の必要低い
- ◎NHKはややおつた。表示は必要。
- ◎一部週刊誌はあおつた
- ◎ネットは半々に分かれた
- ◎政府はメディア、世論に動揺せず
- 結果としては、扇動的な空気は生まれなかった。

## 世の中に「悪い化学物質」と「よい化学物質」があるは、本当か

- ・毒性は「量」次第
- ・健康によい物質でも大量に摂取すれば、悪影響を及ぼす

## どちらを信じるか



◎近藤氏は放射線医師 抗がん剤を使ったがん治療経験ゼロ。「胃がん・臓器ごっそり切り刻み後遺症著しい」(近藤)、「手術と抗がん剤で5年生存率72%」(大場)。「放置したら7年も生きた」(近藤氏) ×「倫理的に許されない。私は必死で治療」。

## 近藤氏の特徴

- ◎手術で失敗して死亡した有名人(中村勘三郎氏は進行食道がんで抗がん剤＋手術)の悪いケースをあげる。なかにし礼氏(抗がん剤＋放射線治療)のようになった可能性あるが、エビデンスとして双方の治療に差なし。事前にどちらを選んでもおかしくない。
- ◎放置した場合と抗がん剤などで治療した場合の長期エビデンスはあるか?(近藤氏)。対談で永遠に証明不可能な命題を相手にぶつけた

## 判定する物差し

- ◎査読付きの医学論文にして世界に向けて発表したか(近藤氏は、本という形のみ。他の科学者のレビューを受けていない)
- ◎鳥越俊太郎氏のような抗がん剤と手術で元気に生きている人との対談をやらない
- ◎反証可能な言い方か(放置して早く死んだら、治療の苦しみを受けて済んでよかったね。何をやっても死ぬ本物のがんだった。長く生きたら、がんもどきだったんです。どちらも成立)

## 先進医療とは

- 先進医療、最新の先端医療とは何か
- ・「患者の利益よりも、研究者の業績を優先しているものや、営利目的の商品がほとんど」(腫瘍内科医の大場大氏)
- ・有効性も安全性も、十分に確立されていない治療法。保険適用になるほど標準的な治療になっていない治療法。
- ・標準治療よりすぐれた治療法ではない

## ミツバチと農薬

- ・だれが、だれに間違いを伝えるか
- ・問題の全体像ははたして伝わるか

## 査読付き論文に出たか？

■農水の研究所の研究者らが「高濃度4ppm、中濃度0.8ppm、低濃度0.4ppm。1ミリ<sup>3</sup>の砂糖水に溶かす。ミツバチが1日に飲む量はLD50の約3倍だった」と発表。

■ネオニコ農薬でミツバチ、ウズラに影響などの話も記事になったが、出たのは大学の紀要。他の科学者の査読を通過したかを確認したい  
◎記者は「低い濃度」と思っていたと私に言った

## 間違いを知らせるのはだれか

◎ミツバチの農薬実験の不備は、農水省の研究者らが月刊「現代化学」に投稿して初めて分かった。なぜ、記者に知らせないのか？＝専門家の怠慢か？

◎共同通信は続報で伝えたか。伝えていない。なぜ、フォローしないのか。

◎メディア報道に対するカウンター情報をどうやって市民に知らせるか→「メディアのメディア」か「記者向けセミナー」が必要

## 西洋ミツバチの実態

◎西洋ミツバチは米国、日本では外来種  
◎巣崩壊の現象はフランス、米国。日本での巣は1960年代より多い。ニュージーランド、トルコ、アフリカでは増加。豪州はネオニコ使用、何も起きていない。EUは13年12月から予防原則で暫定制限。菜種の生産量低下(害虫のせい)。  
◎がんが増えたのは農薬のせいという学者もいるが、長生きする人が増えたからは常識。

## 農薬と基準値

【なぜ、農薬の残留基準値は作物ごとに異なるか。基準値を超えることと健康影響は無関係】

◎クロチアニジンの基準値

◎なぜ、肉類は低いか

◎農薬を使わない食品は一律基準

◎実際に流通する食品の残留レベルは0.001ppm前後。影響はほぼゼロのレベル

## 確証バイアス＝思い込みの危険

◎ミツバチに悪いのはネオニコ→死んだミツバチからも花粉からもネオニコが検出された→やはりネオニコが原因だった。そういえば、子供の発達障害が増えている。細胞の実験では脳神経細胞にも悪影響する→子供の発達障害にも関係しているはずだ。EUは使用制限措置をとった。なぜ、日本は放置？

■確証バイアス＝いったん思い込むと自分の眼鏡に合った情報ばかりを追うようになる

## ミツバチその2

◎多数の学者の見解＝ネオニコは過去の有機リン系などに比べ、人畜への毒性は低い。農薬でトンボが減ったという国立環境研の五箇氏も「安全性は向上」と。

◎ハナバチの方が授粉に貢献

◎農薬とミツバチの関係は1940年代からあった。米国の養蜂家アンケ。1位は栄養不足

◎野外の農薬レベルでは影響なしの文献が多い。しかし、メディア報道は偏っている。

## ある学会的一幕(金沢)

◎群馬県では2006年以降、果物やお茶を摂取したあと、全身けん怠、筋肉の痛み、記憶障害、頭痛、ふるえ、発熱などの症状が数百例。市販のペットボトルは農薬で汚染、飲むな！

■反論＝重い症状はあっても、尿から非検出の例。健康な人でも検出されるが症状なし。市販の食品に含まれる濃度はADIの1%以下。再反論＝人と動物は違う。毒性試験の結果だけで判断してはいけない。だれも納得せず。

## サイエンスメディアセンター

《SMC発サイエンス・アラート、8月25日》

■英国の研究者がネオニコ農薬の種子コーティング使用量の増加はミツバチの減少と関連

- ・永井孝志氏(農業環境技術研)＝相関はあっても因果関係ではない
- ・林岳彦氏(国立環境研)＝見かけ上の相関関係の可能性。統計解析に問題など
- ・五箇公一氏(国立環境研)＝野外観察による景観スケールは評価できるなど、ほかにも

## トキはいつ絶滅寸前に？



## 新潟県の新聞広報

◎1960年代の高度経済成長時代、トキの体内から高濃度の農薬が見つかった。その影響の思われる卵殻の薄い「軟卵」がしばしばふ化しないまま見つかりました

◎佐渡市は農薬を減らして米を作り・・・

■1934年に国の天然記念物

■記者たちはいまでも農薬を使わないようにすることがトキを救う・・・と書く。農薬性悪説か。

## グリーンピースは国産を危険？



## 阪急阪神ホテルズ偽装＝初期情報がいかに重要か

- ・記者が納得する説明なのか？
- ・新聞の締め切り時間も考慮？
- ・だれがいつどこで説明するか

## なぜ、大阪で大問題に？



## 13年5月18日朝刊ベタ扱い



## 6月18日第三社会面ベタ



- ◎ディズニーランドのオリエンタルランドはピザの食材に誤表示。ズワイガニはベニズワイガニでした。
- ◎プリンスホテルがアブラガニをズワイガニと表示、国産鶏を地鶏と。「部門間の情報伝達の不備。」
- どちらもビッグニュースにならず。なぜ？

## 22日夕刊社会面(朝日)



- ◎冷凍なのに、鮮魚と表示した、が見出しに。
- ◎農水も、厚生労働省も違反と言っていない
- ◎トビウオの卵を、キャビアと言っても、違反ではないのに見出し。キャビアは魚の卵の意味。

## 読むべきか無視すべきか？



## 午前10時ごろの会見是最悪？

- ①午前9時半、広報担当者が社会部記者クラブでレクをやると公表。「締め切りが近く、最悪」。 「テレビには連絡せず」。新聞を見て、テレビ各者は激怒。午後に役員の見会。社長は出てこず。対応が後手後手。
- ②毎日新聞は「あの高級な阪急。8万食で誤表示、大問題。一面でいこう」。他社も追随。
- 大阪社会部と東京経済部の差。記者の感覚、センスは部署で異なる

## 異物混入問題

- ・メディアも行政も抑止力なし
- ・記者の発想はワンパターン
- ・記者の勉強不足にどう対処

## ゴキブリ1匹で世界初の珍事？



## テレビは食の安全問題？



## ペヤングやきそば1

◎14年12月2日、大学生がツイッターにゴキブリ混入写真を投稿。3日朝、保健所と「まるか食品」に連絡。社員が大学生を訪問「結果が出るまでツイートを削除してほしい」と要請。一時的に削除。会社は現物商品とその値段で買い取った。◎大学生は「お互いのためとかいって、圧力をかけてきた。カチンときた」と不満をツイート。◎3日夜、保健所が「製造工程での混入否定できず」と自主回収を指導。

## ペヤングやきそば2

◎4日、社は「通常の工程上、このような混入は考えられないが」と言い、商品2品の製造休止と自主回収を発表。4日午後、担当者が大学生を訪問「新聞におわびと回収を載せる」と説明→大学生は「誠意をもって対応していただいた」とツイート。◎10日、日清食品が冷凍パスタに虫で74万食の自主回収を公表◎11日、全工場の生産自粛と全商品の自主回収を発表。■企業防衛を優先し、対応に1週間以上も。

## リリースの言葉

◎「通常の製造工程では、このような混入は考えられないのでございますが、回収します」はお客に信頼される言い方か？

■ある記者は、「責任逃れ」に聞こえる、と。

■たとえば、「ただいま原因を調査中ですが、万が一を考え、回収させていただきます…」みたいにする。つまり、あとで訂正される恐れのあることを初期の段階で書かないことが重要。

## 公表の難しさ・マクドナルドの例

◎毎日新聞の記事＝「課題は異物混入の公表のあり方」→「異物混入は客への個別対応が基本。他店でも起きる拡張性がなければ、公表しない」と述べ、発表したのは4件のみで、年間の異物混入件数に対し、口を閉じた。

◎マックはリスコミの基本を遵守。3時間も会見。他業界から見て問題点なし。しかし、メディア(特にテレビ)は違った。

■マクドナルドゆえの特殊性もあった

## マックはマスコミの餌食に

◎かつての王者、強き者の売り上げが落ちて、敗れる姿はおもしろい。

◎上海事件で強気の会見。「マックは被害者」カサノバCEOが傲慢に映った

◎そこへ、異物混入。ニュース価値は倍加

■マスコミは中立公平ではない。おもしろい素材にはすぐに飛びつく。

## 会見の答え方

◎米国のCDCやNASAの会見はすばらしい。答えるときに「この答えで納得しましたか」とか「この説明でよろしいでしょうか」と記者に問い返す。

◎記者が納得しなければ、再質問し、さらに詳しく答えることになる。

◎マックの「件数はお答えできない」では、それがニュースになってしまう。

## 異物混入の件数をどう公表

マスコミが納得する形でどのように公表するかが課題。今後もマスコミは「異物混入件数は？」と会見で聞く

## グリホサートはグループ2A



◎3月24日、毎日新聞(時事通信)に掲載「WHOは5段階で上から2番目にリスクが高い2Aに」

■グループの分類は危ない順番か？

◎グループ1にアルコール、紫外線、放射線、カドミウムなど。毎日アルコールを飲むのは危ないか。

## 記者の知識不足とリスク報道

◎時事通信の配信(15年3月20日)＝IARCは「グリホサートは5段階で上から2番目にリスクが高いグループ2Aに分類」と報道。

①IARCは3月20日、マラチオン、ダイアジンを2A、パラチオン、テトラクロルピホスを2Bに分類(なぜ、グリホサートだけを記事に?)

②ドイツの評価機関が反論した(記事になっていない)③グループ分けはリスクの順番ではない■間違いを記者、読者にどう伝えるか課題。



## トランス、IARCとも英語必須

- ◎世界中の情報を読むには英語は必須
- ◎論文を読みこなす能力も必要。日本語訳まで待つと出遅れる。
- IT革命。イット革命。国会で答弁した元首相
- クリントン大統領と会談
- ・HOW ARE YOU? といいなさい
- そして、答えは、ME、TOO。
- ◎まちがえて、WH? (だれ)???

## GMの呪縛は以前続く

- ・メディアは反対する市民に遠慮
- ・よいニュースと悪いニュースセット
- ・実態を知る記者はほとんどゼロ

## 非組み換えは“農薬漬け”



- ◎ネブラスカ州のフリーゼンさん(13年夏)
- ◎日本の消費者は「ノンGMを求める。それは殺虫剤を使ってくれという意味。でも、殺虫剤は使いたくない。健康にも環境にもよくないから」

## 真実を見よう

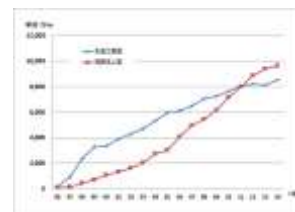


- ◎GMコーンで収入アップ  
妻は教師、夫は市役所職員。手間暇がかからず、兼業可能。小規模農家でも採用可能。
- ◎この周辺はほぼ100%GMを導入
- 日本の農家にもプラスは間違いなく大きい

## 世界28カ国(バイテク情報普及会)



## 途上国でも一貫して増加



## 遺伝子組み換えの真実

- ◎私を変えたのは「事実」。批判、非難には屈しなかったが、事実には屈した。
- ◎メリット＝農薬の節約、収量(収入)の増加。土壌の流失防止、省力、環境により効果(BTコーンは無農薬。ウサギなど増加、飲み水の農薬汚染が減少)＝数百の査読つき論文
- ◎世界中の研究機関が「問題なし」「従来の作物に比べリスクが高いことはない」
- マーク・ライナス氏の懺悔講演がニュース

## 市民社会とは何か

- ・専門家と市民、どちらが勝つか
- ・リスコムは政治闘争そのものか

## 朝日新聞の論調

- ◎専門家の話＝「因果関係がないとは断定できない」
- ◎医師の話＝「不安の中で生きている人が、放射能のせいで鼻血が出たと考えてもおかしくない」
- ◎漫画文化の教授＝「政府が一斉に遺憾の意を示したのは、漫画表現に対して介入する余地を残した」「言論を封じるのはよくない」

## 美味しんぼ問題・各社の違い

- ①読売、産経＝風評助長する非科学的描写。科学的知見に基づかず、裏付けは甘い。
- ②東京＝行き過ぎはどっちだ。通説とは異なるからと否定、封じるのはよくない
- ③毎日＝鼻血に疑問。心理的ストレスが原因の可能性。怒りの声は理解できる。冷静さ必要
- 過去に鼻血の記事を書いた朝日、東京は擁護。メディアも思想集団か。

## 「市民社会」の役割はだれか

- 決定権は市民にあり。市民が主人公の社会。なぜ、市民が判決に加わる陪審制が誕生したのか。フランス革命で起きたことは「権力、専門家よりも市民の意思、民意を重視。間違ってもよい。権力の恣意よりは」が根底にある。
- なぜ、非科学的な話が記事になるか。
- ◎たとえ科学的な根拠がなくても、市民の不安を記事にするのがメディアの使命。科学よりも不安を重視するのが市民社会。

## 経済よりも人権



- ◎原発事故は「故郷の喪失」をもたらす。金銭的な被害に還元できないから反対。
- ◎コストがいくらかかって、人権を優先する思想は、市民の発想。
- ◎お上の金銭計算よりも庶民の感覚優先

## 新規制値は子供を守る？



◎「不安」に思う特定の少数の女性たちをあえて取り上げて、不安を訴えるマスコミ→新基準値でも「不安」だと訴える

◎情報の主体が異なるだけで、北朝鮮と効果は同じ。善の顔をまとう分だけ悪質か？

## 専門家と市民、どちらが強い？

◎なぜ、セシウムの基準は1キロあたり100ベクレルに。放射線審議会の科学者は全員、100ベクレルはおかしいと主張したのに、なぜ政府は100に？→「市民の安心のため」

◎なぜ、1億人に1人のリスクでも輸入が止まったのか(BSE)

◎なぜ、圧倒的な医師が接種継続を陳情しているのに、政府は動かないのか(子宮頸がん予防ワクチン)

## 世の中を動かすのはだれか

◎市民は主人公。しかし、同じ市民とはいえ、価値観、宗教、思想、いろいろ。利害はみな異なる。意見の一致はありえない。

◎どうするか＝「選挙」で物事を決める。みなで決めたことは守るといのがいまの民主主義。

■GM作物の事例＝国、専門家は安全で栽培OK。しかし、市民は不安。自治体は条例で禁止。科学的な合理性よりも市民の意向を重視。

## 記者は何を重視するか

◎記事のパターン＝一部の専門家＋一部の市民団体のアクション＋一部の政治家の国会質問×一部メディア(リスクを増幅、問題に火をつける)

◎記者が重視するのは「弱い市民の側に立つ」「市民からの共感」。科学的な正確性よりも、市民からの共感を優先。ワクチン接種で因果関係不明の被害発生。まず被害者に共感する。専門家による科学的な検証は後回し。

## そもそも市民は色付きの集団

◎ニュースは有料の商品。パンやテレビと同じ

◎商品が売れている間は会社はつぶれない。会社を支えているのは商品の購入者＝市民。

◎ジャンクニュースを支えるのも市民。買う行為は選挙の投票と同じ。買う＝支持。

■朝日を支持する市民対読売の市民の闘い？

■週刊誌を買うことがジャンク情報を生き残らせることを知っておこう。市民はみんな色付き

## 企業とメディアは異なるか

◎企業はなぜ、オールゼロ、無添加のような商品を出すのか

◎週刊誌はなぜ、派手な見出しをつけるか

◎テレビはなぜ、俗悪バラエティ番組を

◎新聞はなぜ、一面的なニュースを

■共通点＝組織の存続。市民のニーズに応じた行動。その結果、おもしろい話、美味な商品、ユニークな製品が出てくる。

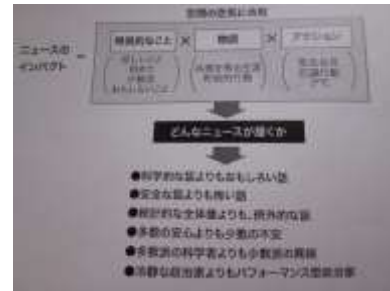
## では、なぜ、おもしろ商品が？

### ■ 欠乏とトレードオフ

◎大金持ちは5万円のイタリア製高級靴を衝動買いしても、また別のを買うだけ。月収10万円の人には5万円の靴を買えば、それで他のものを買う機会費用を考える。トレードオフを真剣に。

◎国家的な危機ではメディアも気楽なニュースは流せない。米国の9・11。東日本大震災時(あおってはいけない)。パニックになれば、全国の人が大混乱に陥る。太平洋戦争も同じ。

## ニュースの方程式の解は？



## マスコミのバタフライ効果



マスコミが取り上げる条件

- ① 涙
- ② 正義感と内部告発
- ③ 女性と子供を守る

■ この条件がそろると、たった1人でも世の中を動かすことができる。多数の科学者は無視？

## ヤモリと母とリスク認知



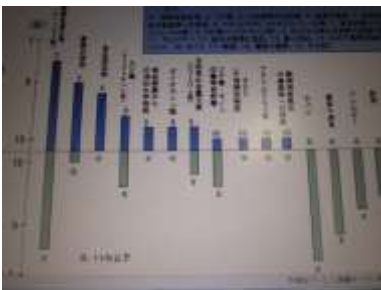
◎毎日、家の窓に、トカゲが留まり、気持ち悪い。

◎どうしよう

◎近所の人が出た

◎まあ、可愛い。赤ちゃんみたいな手だね。

## 市民と専門家の違い



## 見出しで読者を誘導



## NHKスペシャル14年12月21日



## スペシャル

◎原子力学会の学者ら139人が質問状。3回の質問状に対し、返事は2回のみ。

・間違いは50カ所

◎NHK=5日目から2週間にわたり75%が放出。知られざる放出(衝撃の事実と)。「もともと放出をとめるマニュアルなかった」とも。

・政府があたかも隠していたかのような印象。反論=原子力委員会(13年)の資料でだれでも知っていた。当然止めるマニュアルはあった。

この二人はだれでしょうか

